



小網代通信

2017年3月号 VOL-225

発行：小網代ヨットクラブ

編集：広報委員会

編集長：里吉美恵子

〒238-0225

神奈川県三浦市三崎町小網代1385-18

Tel&Fax 046-804-5550

今月の内容

・連絡事項	編集委員	1ページ
・「普通救命講習会・ルール講習会 レポート」	編集子	2ページ
・「本のご紹介 “海に向かう足あと”(朽木 祥著)」	編集子	3ページ

連絡事項 (編集委員)

2月19日(日)KFRは、1月のレースが中止になり、今年の初レースとなりました。天候にも恵まれました。実は、このレースが通算500回目です。



1. < 3月19日(日)“KFR500回記念レース”とパーティが開催されます！ >

500回記念レースは、あらかじめ申し込みが必要で、当日受付はありませんのでご注意ください。

今回は、ファミリークラスも設定されています。パーティは、午後3時からシーボニア内プールサイドレストランで1人3,000円です。

2月のKFR優勝艇「ケロニア」は記念レースを前に上架を行い、レース優勝当日が80歳の誕生日だった大谷氏の陣頭指揮のもとメンバー総出、2日かかりで船底塗装。

他にも「かまくら」「飛車角」・・・と続々上架、各艇500回記念レースを秘かに狙っています。

さて、レースは南西ブイ回りのEコース。楽しみです！



陣頭指揮の大谷氏とメンバー



【小網代ヨットクラブウェブサイト情報】 URL <http://koaziroyc.jp>

【次回予定 総務委員会 3月21日(火)18:30~21:00 駐健保会館4階会議室(JR田町駅より徒歩10分)】

2017. 3月号-1

普通救命講習会 (企画担当 高橋尚之氏)

2月18日(土)午後1時からクラブハウス2階にて開催されました。クラブハウス委員長の「イクソラ」高橋氏の呼びかけで集まったクラブメンバー28人が三浦市消防署員の指導のもと実践講習に参加しました。この講習会は2年前にも開催され好評でしたが、時の経過とともに記憶がうすれます。繰り返しの訓練は、記憶と自信を取り戻し、いざという時に役に立つでしょう。クラブハウス玄関横に設置されたAEDの操作法の復習にもなりましたね。



←消防署員2名による心肺蘇生とAEDのデモンストレーション。

→参加者も、さあ～訓練開始です！



←発見者は周りの人に大声で応援を求めます。

→心肺蘇生は、お尻を後ろに突き出した姿勢で手と手を重ね、体重をかけて30回ずつテンポよく行います。

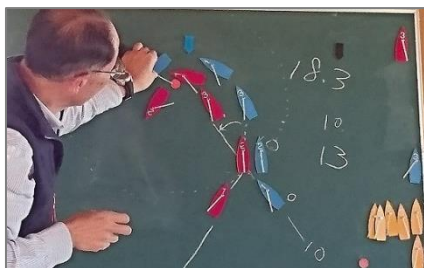


←気道は、このように顎を押さえて確保する

→“おんぶ”する時は、片手をフリーに、片手で患者の両手を重ねて押さえます。



ルール講習会(三浦OSC主催)



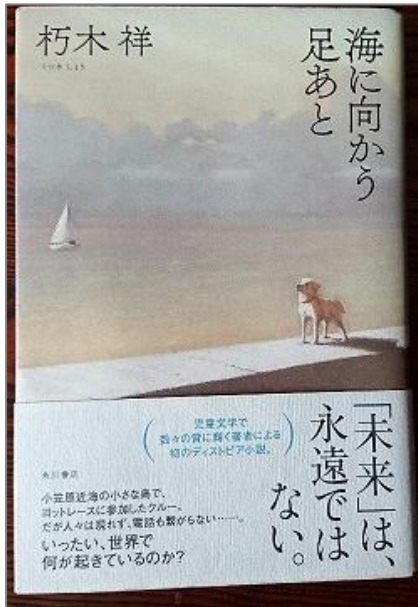
3月4日(土)午後1時30分からクラブハウス2階にて開催されました。レーシングルール改訂により開催されたものです。A級ジャッジの三輪講師から、今更聞けない・・・実戦で起こりうるケースを分かりやすく教えていただきました。

今後も企画されるそうですので、今回お聞き逃しの方はぜひ次回の参加をお勧めします。

《本のご紹介》

「海に向かう足あと」(朽木 祥著)

編集子



今回ご紹介いたします小説は、今年(2017年)2月初版された、外洋ヨットの世界を題材とした作品です。

風色湾に繋留している「月天号」の世代交代によって中古船を購入した若手メンバーが艇名を「エオリアン・ハーブ」号(風の豎琴)と変え、小笠原諸島の手前の島、三日月島というところから江の島フィニッシュする900キロのレースに参戦するという設定のお話です。今年5月に何年ぶりかで復活した「小笠原レース」と見間違ふかのようなフィクション。

「海に向かう足あと」(朽木 祥著)をご紹介いたします。

読み進めていくと・・・そのヨットの繋留場所、その他の場面や背景が、小網代湾の私たちの繋留場所かと彷彿させます。もしやと思い、文中に艇名が出てくる「サンゴ」の藤原理恵子さんに伺ったところ、次のようなお話をいただきました。

「朽木 祥さんは、サンゴのメンバーです。児童文学で大活躍されている方で、数々の賞をお取りになっ

ていらして、17言語に翻訳された本もあるそうです。(今回は初のディストピア小説ということですが・・・)

今回の作品では私の夫、藤原博もモデルの一部になっているようだとい、入院中の夫にそのことを伝えておりました。

他にもサンゴのメンバーを思わせるような人物とか場面、背景など楽しく読ませてもらいました。

また、3月11日が近づき、北朝鮮の弾道ミサイルの発射と続く、危うい世相をみるにつけ、朽木さんのフィクションに生々しさを感じてしまいました。

因みに、藤原博は小説の最後に出てくるサンゴの藤山という人物のモデルになっているのでしょうか、きっと。

また、朽木さんの児童文学書の中でも特に「風の靴」は、小網代を舞台にした筋と挿絵が印象深い作品です。

小網代通信でも是非ご紹介下さい。」

＝編集子＝

藤原さん、ありがとうございます。是非、作品について著者にお話を伺える機会をいただけたらと思います。

読後感としては、今ここにある危機という、そっくりな状況になっている現実には驚きを隠せません。でも、お話の内容は、私たちクラブの中の出来事のような自然に頷ける事ばかり、美味しそうな食べ物やセンスの良いファッションもかなりイケてます。とは言え、自然災害・人的災害により日常が奪われるということ。未来は永遠ではない、けど望みを捨てないで突き進めと、考えさせられます。是非読んでみてください。